

芝居^{しばゐ}は四條鴨川^{かも}の東にあり、永祿年中に江州の浪人名古屋三左衛門といふもの、出雲のお国といふ風流女とかたらひ、歌舞伎と名づけて、男女立合の狂言を仕組、北野の森祇園^{ぎおん}の南林、あるひは五條河原橋^{かははし}の南にて興行しけるに、秀吉公^{ひでよし}伏見城^{ふしみのじやう}より上洛し給ふ時、見物群集し妨に及ぶ故に、四條の河原にうつす。其後中絶ありし所に、承応二年に村山又兵衛といふもの、四條河原中島^{かはら}にて再興し、又繩手^{なはて}四條の北にうつし、遂に寛文年中に今の地にうつして常芝居となる。